

北斗通信

(令和7年2月号)

1. 埼玉県 公立高校出願状況	1
資料① 埼玉県公立高校 出願状況	6
2. 東京都 都立高校入試結果から	2
資料② 都立高校推薦入試結果 総括表	8
資料③ 都立高校の一般出願状況	10
3. その他の話題	3
・令和7年度大学入学共通テストの志願動向	3
・さいたま市立浦和中学校の応募状況	3
・さいたま市立大宮国際中等教育学校の応募状況	4
・伊奈学園中学校の応募状況	4
・川口市立附属中学の応募状況	5

会員限定情報「北斗通信」
令和7年2月12日
岩佐教育研究所
TEL048-688-4698
FAX048-675-0219
E-mail shohokuto@gol.com
無断転載を禁じます。

専門学科が低倍率に

1. 埼玉県 公立高校出願状況

資料① 令和7年度公立高校出願状況

埼玉県公立高校の令和7年度日程

1月27日(月)～2月10日(月) 出願入力期間(インターネットにて)

2月13日(木)、14日(金)、17日(月) 出願書類の提出期間

2月13日は郵送による提出

2月18日(火)、19日(水) 志願先変更期間

2月26日(水) 学力検査

2月27日(木) 実技検査、面接(一部の学校)

3月3日(月) 追検査

3月6日(木) 入学許可候補者発表

2月10日埼玉県の公立高校の出願状況が発表された。

全日制課程の応募者は、38,854人で、前年の39,587人より、733人(前年は483人減少)減少していた。

12月15日現在の進路希望調査での公立全日制希望者数 39,558人の98.2%(前年99.5%)となった。12月15日以降に志望校変更した生徒は704人だったことになる。前年の440人から増加した。

定員から内部進学者(伊奈学園79人、市立浦和80人、川口市立80人)を差し引いた募集予定数35,241人から転編入枠240人を

差し引いた35,001人に対する倍率は、1.11倍(令和2年度は1.12倍、3年度は1.10倍、4年度は1.10倍、5年度は1.11倍、6年度は1.13倍)となり前年を0.02倍下回った。

また、普通科の応募者は、30,223人と前年の30,226人より3人減少し、1.17倍と、前年を0.01倍上回っていた。

普通科の学校ごとでは、倍率が1.5倍を超えた高校は、市立浦和1.96倍、川口市立1.71倍、大宮1.64倍、浦和南1.57倍、浦和1.55倍、川越1.54倍、大宮北1.50倍など前年の8校より1校減り7校となっていた。

また、普通科以外では、大宮・理数2.65倍、

大宮北・理数 2.35 倍, 越ヶ谷北・理数 2.10 倍, 市立川越・国際経済 1.59 倍, 市立川越・情報処理 1.56 倍, 蕨・外国語 1.50 倍などが

高倍率となっていた。

普通科 26 校と専門学科 30 校 71 学科, 総合学科 5 校で定員に達していない。

最近数年来の高倍率常連校だった川口北 1.27 倍, 川越女子 1.20 倍, 越谷北 1.26 倍, 所沢北 1.27 倍, 和光国際 1.20 倍などの倍率低下が目立っています。レベル的には偏差値で 58~62 のそうだと思います。大学入試改革の影響があり, 受験生の志向が私学に流れ易い層なのかもしれません。

前年度では, 約 790 人の在籍の減少に対して, 令和 8 年の統廃合の対象校 6 校の募集停止を含め, 800 人の定員削減が実施されました。65 対 35 の公私間協定比率から見ると 300 人は多い人数となります。7 年度入試では, 280 人の生徒減に対して 120 人の定員減を実施しました。普通科は前年並みですが, 専門学科, 総合学科で定員割れが激しくなっています。

2. 東京都 都立高校入試結果から

資料② 東京都 都立高校推薦入試結果 総括表

資料③ 東京都 都立高校一般・分割前期出願状況

東京都教育庁は, 1 月 31 日, 令和 7 年度推薦入試の結果を, 2 月 7 日に同一般・分割前期の応募状況を発表した。

全日制普通科の 108 校(推薦では同 103 校)では, 前年度の男女合同選抜への移行により, 発表はすべて男女合計になっているため, 具体的な男女別の数値は不明となっている。

合格発表日は, 推薦が 1 月 31 日, 一般が 3 月 3 日となっている。

都立では, 27 年度入試から一部の学校でのマークシート導入試行が実施され, 28 年度から, 一般・分割前期の共通問題で, 全校マークシート方式で実施された。30 年度では, 進学指導重点校 6 校と, 進学重視型単位制 3 校については, 国数英の 3 教科を自校作成に変えている。4 年度から, 男女別定員の 10% の緩和措置が採られている。

5 年度では, ネットによる出願の全校採用と, 男女別定員の 20% の緩和になり, 英語のスピーキングテストが採用されている。

6 年度入試では, 普通科の推薦・一般とも男女合同選抜へ移行する事。帰国生まで WEB

出願の対象とすることが拡大されている。

7 年度では, 大きな変更点は無かったが, 今後, 分割募集の再検討がありそうだ。

都内公立中学校の卒業予定者は, 公私連絡協議会資料で 77,809 人と前年度の 78,025 人より 216 人の減少予定だが, 計画就学率を前年度から 93% にした影響もあり, 都立高校の全日制募集定員は 40,315 人と前年より 320 人(8 学級)の定員減を行っていた。

全日制普通科(含むコース・単位制)の推薦入試では, 応募者は前年より 1,862 人減少し 16,045 人になった。また, 受験倍率は 45 名の辞退者があったが, 2.59 倍と昨年より, 0.27 ポイント下降した。全日制全体では, 2.27 倍と前年より 0.2 ポイント下降していた。

8 年前の内申のみを重視した選抜から, 各校が定めた小論文・作文・実技および集団討論などの結果を重視した選抜への変更以来, 推薦希望者は, 大幅に減少してきたが, それにも増して, 進学先を問わず都内生全員に対して, 授業料補助の上限の撤廃や, 授業料全額補助が志願動向に大きく影響したと考えら

れる。

普通科の学校別で5倍を超えた学校は、1 昨年の、鷲宮 5.6 倍、小岩 5.1 倍の2校から、昨年度は三田 5.3 倍、本所 5.2 倍、板橋 5.0 倍の3校となり、今年度は、青山の4.3倍を最高に5倍超の学校はなくなっている。

一般・分割前期の応募状況では、全日制的

募集人員は、前年より265人少ない30,078人(普通科は220人少ない23,999人)、応募総数では、前年より3,278人少ない38,739人となった。応募倍率では、前年より0.09ポイント低い1.29倍となった。島しょ等・コース制・単位制を除く普通科は、2,759人減の28,887人で前年より0.11ポイント低い1.36倍となっていた。

推薦に始まる都立高校の応募者の減少ですが、12月の進路希望調査で都立全日制が4.57%低下し、国立・私立・他県公立が4.32%上昇、都立昼夜間定時制が0.15%、都立以外の通信制が0.27%上昇していました。都内の私学在籍者に対する支援金の枠の撤廃、授業料の限度額の撤廃の影響が、確実に私学志向の上昇となっていることとなります。

3. その他の話題

第5回 大学入学者共通テスト出願状況

第5回目の大学入学共通テストが終了したが、出願状況をまとめた。

全国の定時制を含む高等学校の卒業予定数は、全日制で男子469,558人、女子453,263人、定時制4年生は男子5,394人、女子3,552人(但し学年生定時制の生徒は含まず)。等合計で931,767人となるが、大学入学共通テスト志願者数は、現役の見込み425,968人で卒業予定者の45.7%、

既卒者64,974人、高卒認定者4,229人などとなっていた。

卒業予定者のうち受験生の出願割合は、徐々に増加している。

また、現役生の男子が48,094人、女子が21,109人となっており、男子の割合が高くなっている。

令和4年から、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、1月中旬と1月下旬の2回の日程が設けられている

埼玉県 さいたま市立浦和中学の応募状況について

一貫型中高一貫校として19年4月に開校したさいたま市立浦和中学校の19年目の入試が開始され、募集人員80人(男子40人、女子40人)に対し、496人(男248人、女248人)が出願した。昨年度から163人減少していた。出願倍率は、前年の8.2倍に対して6.2倍に低下した。

応募者は、さいたま市内在住者に限られるため、市内の小学校6年生、1万1443人(5月1日現在)のうちの4.3%(前年は5.8%、一昨年は5.5%)にあたる。

同中学では、1月11日の1次試験、1月18日の二次試験を経て、1月22日に合格発表で、一次合格男子120人、女子120人。同二次合格は、男子40人、女子40人となっていた。

一次選抜合格者男女各120人の内、二次選抜を欠席した生徒は、男子25人、女子31人となっており、大宮国際との掛け持ちする生徒や私学合格者の辞退によるものと思われる。

出願者数は減少したが、市立浦和中学のレベルの上昇に伴い、上位私学との競合が激しく

なったものと考えられる。

出願者数	令和
	2年度 618人
	3年度 561人
	4年度 624人
	5年度 640人
	6年度 659人
	7年度 496人

埼玉県 さいたま市立大宮国際中等教育学校の応募状況について

埼玉県初の中等教育学校として平成31年に開校した、さいたま市立大宮国際中等教育学校の第7回目の入試が実施された。募集は、男女80ずつ160人に対して、出願は、男子298人、女子326人の計624人で出願倍率は、男子3.7倍、女子4.1倍。一次選抜受験者は、男子293人、女子321人で計614人。一次選抜合格者は、男子200人、女子200人、計400人だった。二次選抜受験数は、男子141人、女子143人、計284人。二次選抜合格者数は男子80人、女子80人の計160人と発表されている。

今後入学手続き状況を見ながら、繰り上げ合格が実施されると思われる。

受験資格は、さいたま市在籍の生徒のため市立浦和中学との重複もあるようだ。

市内の6.4%が出願していた。

出願	
2年度 計	702人 男子302人、女子400人
3年度 計	628人 男子262人、女子366人
4年度 計	686人 男子282人、女子404人
5年度 計	684人 男子283人、女子401人
6年度 計	730人 男子318人、女子412人
7年度 計	624人 男子298人、女子326人

埼玉県 伊奈学園中学の抽選応募状況について

創立22年目となる県立伊奈学園中学校の応募者が、12月26日締め切られ令和7年度入試応募者が確定した。今年度の応募者は376人、25年度に抽選が廃止になり、全員に調査書・願書・受験（受験料2200円）が義務付けられている。一次選考は、①思考力及び表現力を見る作文、②課題を発見し、解決す

る力を見る作文を各50分で書かせる。となっている。

尚、1月11日に第一次選考が実施され1次受験者372人、合格者204人。

1月18日に第二次選考が実施され2次受験者169人、1月23日に合格者が80人と決定しているがその後、私学などへの手続き状況を見ながらの繰り上げ合格がありそうだ。

年度	応募	受験	倍率
令和2年度	410人		2.25倍(一次)
令和3年度	402人	395人	2.09倍(一次)
令和4年度	440人	433人	2.20倍(一次)
令和5年度	365人	361人	1.81倍(一次)
令和6年度	400人	395人	1.92倍(一次)
令和7年度	376人	372人	1.82倍(一次)

埼玉県 川口市立附属中学の応募状況について

令和3年4月に開校した川口市立附属中学校の第5回目の入試応募状況では、募集80人に対し、志願者は355人で4.4倍、1月11日の第一次選考の実受験数、合格者、2次選考受験者、合格者は、未公表となっている。

また、今年度から募集は、男女合同によるものとなっている。

受験資格は川口市在住の生徒とされる。市内卒業予定者は4,881人(6年5月1日現在)で出

願した355人は、このうちの7.3%となっていた。

4年連続で出願者が減少しているが、これは、高倍率に加えて、入試問題の質が明らかになったことと合格者のレベルが見えたことによるものと考えられる。

合格者のレベルも安定してきたようだ。

一昨年は、志願者は男子211人で5.3倍、女子207人で5.2倍、昨年は、男子187人で4.7倍、女子は178人で4.5倍だった。

閑話休題

中学入試が終わり、都内私立高校入試が2月10日・11日でほぼ終了しました。

公立高校入試では、東京の推薦が終了し一般選抜の出願が東京・千葉・埼玉と締め切られています。

東京都の入試では、私学授業料無償政策によって、都立への出願者が大幅に減少しました。

埼玉・千葉・神奈川の各知事が国に是正を求めている授業料への支援金の格差是正に対して、国民民主党を中心に国会論議が開始されています。既に実施している大阪府のケースでは、志願者の私学への流れが止まらないようです。

現在、埼玉県生が県外に進学すると県の助成金は対象とならず、国の支援金の範疇になりますが、国の政策の拡大によって、志願の流れが大きく変わって行くことが予想されます。平成元年の在籍のピーク時に約12,000人いた都内への進学者が現在は約3,200人まで減少していました。公私間協定比率65:35が壊れ始め公立が進学者の65%を支えきれなくなっていますので、少子化の進行に伴い、私学助成を拡大して公立の定員を削減していくのが自然の流れなのかもしれません。ただし、その分、私学の責任は、ますます大きくなっていくと思います。

埼玉県では、1月に今後の県立高校の在り方と再編整備計画案をパブリックコメントとし、2月9日までに閉め切っています。まだ、確定方針はまとまっていませんが、令和20年までに今後の少子化や産業構造の変化に対応するため、学校数を15～19校減らすことや男女別学校の共学化や中高一貫校の設置などが盛り込まれていました。

再編整備計画は、5期程度に分けられ、第一期は今年度中に発表される見込みです。

少子化では、公立中学校の在籍が令和6年度の59,000人から令和20年には44,000人になる事が見込まれているなどの内容となっています。25%の卒業生数の減少、さらに、県立高校の最大19校の削減が、これまでのように募集困難校中心に実施されるとすると、入試構造の変化がどのようになっていくのか見極めていく必要があると思います。

いよいよ令和7年度の高校入試が開始されました。コロナ、インフルエンザなど再流行の兆しがありますが、受験生の皆さんが健康で、力いっぱい受験に立ち向かっていけるように願ってやみません。

令和7年2月10日

令和7年度埼玉県公立高等学校入学者選抜における入学志願者数について

1 令和7年度入学者選抜実施校数

136校(全日制131校、定時制24校(うち全日制に併置する学校19校))

(全日制普通科98校・専門学科54校・総合学科9校、定時制普通科17校・専門学科4校・総合学科5校)

2 募集人員及び志願者数等

(1) 募集人員

全日制的募集人員は 35,241人で、6年度の 35,370人より129人少ない。

定時制的募集人員は 2,036人で、6年度の 2,116人より80人少ない。

(上記には、転勤等に伴う転編入学者等の募集人員(全日制240、定時制56)を含む。)

(2) 志願者数

ア 全日制は 38,854人である。

イ 定時制は 1,103人である。

ウ 全日制の普通科は 30,223人である。

エ 全日制の専門学科は 7,044人である。

オ 全日制の総合学科は 1,587人である。

(3) 倍率

ア 全日制は 1.11倍である。

イ 定時制は 0.56倍である。

ウ 全日制の普通科は 1.17倍である。

エ 全日制の専門学科は 0.95倍である。

オ 全日制の総合学科は 0.91倍である。

(4) 入学志願者数等一覧表

課程・学科		入学許可候補 予定者数(A)	志願者数 (B)	倍率(B/A)	
全日 制	普通科 (うちコース)	25,877 (200)	30,223 (200)	1.17 (1.00)	
	専門学 科	農業	796	641	0.81
		工業	2,382	2,118	0.89
		商業	2,285	2,137	0.94
		家庭	319	305	0.96
		看護	80	94	1.18
		外国語	319	389	1.22
		美術	120	131	1.09
		音楽	120	69	0.58

	書道	40	41	1.03
	体育	160	186	1.16
	理数	280	510	1.82
	福祉	80	22	0.28
	人文	40	26	0.65
	国際文化	40	39	0.98
	映像芸術	40	38	0.95
	舞台芸術	40	33	0.83
	生物・環境系	238	265	1.11
	専門学科計	7,379	7,044	0.95
	総合学科	1,745	1,587	0.91
	合計	35,001	38,854	1.11

※入学許可候補予定者数(A)は、募集人員から転勤等に伴う転編入学者等の募集人員を除いたものである。

※全日制における、転勤等に伴う転編入学者等の募集人員は 240 人である。

※倍率は小数点以下第 3 位を四捨五入したものである。

課程・学科		入学許可候補 予定者数(A)	志願者数 (B)	倍率 (B/A)	
定 時 制	普通科	840	339	0.40	
	専門学 科	工業	200	43	0.22
		商業	40	7	0.18
	総合学科	900	714	0.79	
	合計	1,980	1,103	0.56	

※入学許可候補予定者数(A)は、募集人員から転勤等に伴う転編入学者等の募集人員を除いたものである。

※定時制における、転勤等に伴う転編入学者等の募集人員は 56 人である。

※倍率は小数点以下第 3 位を四捨五入したものである。

3 全日制の課程の概況

(1) 倍率が 1.50 倍以上の学校数、学科数等

普通科では、7 校(7 普通科)

専門学科では、6 校 7 学科

(2) 倍率の高い学校、学科

普通科では 市立浦和高校 普通科(1.96 倍)

川口市立高校 普通科(1.71 倍)

大宮高校 普通科(1.64倍)
市立浦和南高校普通科(1.57倍)などである。
専門学科では 大宮高校 理数科(2.65倍)
市立大宮北高校 理数科(2.35倍)
越谷北高校 理数科(2.10倍)などである。

(3) 倍率が1.00倍未満の学校数、学科数等

普通科では 26校(27普通科、2コース)
専門学科では 30校 71学科
総合学科では 5校

(4) 倍率の低い学校、学科

普通科では 上尾橋高校 普通科(0.39倍)
松伏高校 普通科情報ビジネスコース(0.43倍)などである。
専門学科では 誠和福祉高校 福祉科(0.28倍)
久喜工業高校 環境科学科(0.38倍)などである。
総合学科では 小鹿野高校 総合学科(0.25倍)などである。

東京都都立高校の推薦入試結果

令和7年度都立高等学校の推薦に基づく選抜の入学者選抜合格発表

学科・区分	校数	募集人員 (男女問わず)	応募人員 (男女問わず)	受検人員 (男女問わず)	受検倍率 (男女問わず)	合格人員 (男女問わず)
(コース、単位制以外)計	103	5,568 (5,632)	14,522 (16,148)	14,481 (16,093)	2.60 (2.86)	5,544 (5,600)
普通科	[4]	96 (96)	183 (253)	183 (253)	1.91 (2.64)	96 (96)
コース制計	0					
単位制計	11	507 (507)	1,340 (1,506)	1,336 (1,500)	2.64 (2.96)	502 (507)
普通科合計	114	6,171 (6,235)	16,045 (17,907)	16,000 (17,846)	2.59 (2.86)	6,142 (6,203)
商業科	7	532 (532)	764 (765)	764 (764)	1.44 (1.44)	532 (532)
ビジネスコミュニケーション科	2	154 (154)	239 (244)	238 (244)	1.55 (1.58)	154 (154)
工業科 (単位制以外)	15	960 (960)	1,180 (1,198)	1,177 (1,195)	1.23 (1.24)	835 (823)
工業科(単位制)	1	64 (60)	64 (71)	64 (71)	1.00 (1.18)	64 (55)
科学技術科	2	133 (133)	155 (184)	155 (183)	1.17 (1.38)	133 (133)
農業科	5	217 (217)	447 (400)	447 (400)	2.06 (1.84)	217 (217)
水産科	1	28 (28)	54 (48)	54 (48)	1.93 (1.71)	28 (28)
家庭科 (単位制以外)	[3]	93 (93)	179 (196)	178 (196)	1.91 (2.11)	93 (93)
家庭科(単位制)	[1]	21 (21)	40 (40)	40 (40)	1.90 (1.90)	21 (21)
福祉科	[2]	20 (20)	37 (18)	37 (17)	1.85 (0.85)	20 (17)
理数科	[2]	16 (16)	14 (20)	14 (20)	0.88 (1.25)	8 (12)
芸術科	1	48 (48)	198 (235)	194 (234)	4.04 (4.88)	48 (48)
体育科	[2]	24 (24)	84 (65)	83 (65)	3.46 (2.71)	24 (24)
国際科	1	42 (42)	124 (154)	124 (153)	2.95 (3.64)	42 (42)
併合科	[1]	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0.00 (0.00)	0 (0)
産業科	2	168 (146)	247 (244)	247 (244)	1.47 (1.67)	168 (146)
専門学科合計	38	2,522 (2,496)	3,826 (3,882)	3,816 (3,874)	1.51 (1.55)	2,387 (2,345)
総合学科	10	714 (714)	1,596 (1,632)	1,588 (1,629)	2.22 (2.28)	714 (714)
全日制合計	162	9,407 (9,445)	21,467 (23,421)	21,404 (23,349)	2.28 (2.47)	9,243 (9,262)
新宿山吹高校 (定時制課程)	1	19 (19)	37 (59)	37 (59)	1.95 (3.11)	19 (19)
推薦に基づく選抜合計	163	9,426 (9,464)	21,504 (23,480)	21,441 (23,408)	2.27 (2.47)	9,262 (9,281)

※ ()は昨年度の数値である。

※ 募集人員、応募人員及び受検人員については、一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦及び理数等特別推薦の合計数である。合格人員については、一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦及び理数等特別推薦の重複はない。

※ 校数については複数の学科を併設している学校はその学校の主たる学科欄において算入した。[]は併設校を含めた延学校数である。

都立高校出願状況 一般・分割前期

令和7年度東京都立高等学校入学者選抜応募状況総括表(全日制)

〔一橋高校・新宿山吹高校・浅草高校・荻窪高校・八王子拓真高校・砂川高校・六本木高校・大江戸高校・世田谷泉高校・穆ヶ丘高校・桐ヶ丘高校・小台橋高校・立川緑高校〕

学科・区分		校数	募集人員	応募人員	応募倍率
全 日 制	普通科(コース、単位制、 島しょ、海外帰国生徒対象以外)計	102	(21,255) (21,481)	(28,887) (31,646)	(1.36) (1.47)
	普通科 (島しょ)計	6	(307) (306)	(110) (90)	(0.36) (0.29)
	普通科(コース、単位制、 海外帰国生徒対象以外)計	108	(21,562) (21,787)	(28,997) (31,736)	(1.34) (1.46)
	コース制計	[4]	(224) (224)	(264) (368)	(1.18) (1.64)
	単位制計	11	(2,151) (2,146)	(2,844) (3,111)	(1.32) (1.45)
	海外帰国生徒対象計	[6]	(62) (62)	(67) (66)	(1.08) (1.06)
	普通科合計	119	(23,999) (24,219)	(32,172) (35,281)	(1.34) (1.46)
	商業科	7	(792) (795)	(783) (782)	(0.99) (0.98)
	ビジネスコミュニケーション科	2	(231) (231)	(246) (245)	(1.06) (1.06)
	工業科 (単位制以外)	15	(1,575) (1,584)	(1,230) (1,227)	(0.78) (0.77)
	工業科(単位制)	1	(96) (108)	(68) (86)	(0.71) (0.80)
	科学技術科	2	(252) (252)	(320) (380)	(1.27) (1.51)
	農業科	5	(413) (413)	(545) (473)	(1.32) (1.15)
	水産科	1	(42) (42)	(47) (48)	(1.12) (1.14)
	家庭科 (単位制以外)	[3]	(222) (222)	(192) (214)	(0.86) (0.96)
	家庭科(単位制)	[1]	(49) (49)	(44) (57)	(0.90) (1.16)
	福祉科	[2]	(50) (53)	(34) (14)	(0.68) (0.26)
	理数科	[2]	(72) (68)	(229) (166)	(3.18) (2.44)
	芸術科	1	(112) (112)	(200) (222)	(1.79) (1.98)
体育科	[2]	(52) (52)	(85) (58)	(1.63) (1.12)	
国際科	1	(138) (138)	(246) (313)	(1.78) (2.27)	
併合科	[3]	(105) (105)	(11) (19)	(0.10) (0.18)	
産業科	2	(252) (274)	(236) (286)	(0.94) (1.04)	
専門学科合計	38	(4,453) (4,498)	(4,516) (4,590)	(1.01) (1.02)	
総合学科	10	(1,626) (1,626)	(2,051) (2,146)	(1.26) (1.32)	
全日制合計	167	(30,078) (30,343)	(38,739) (42,017)	(1.29) (1.38)	
一橋・新宿山吹・浅草・荻窪・八王子拓真・砂川高校 (定時制課程単位制)	6	(1,125) (1,159)	(1,055) (1,171)	(0.94) (1.01)	
定時制課程単位制総合学科(チャレンジスクール) 及び定時制課程単位制普通科(チャレンジ校)	[8]	(1,490) (1,320)	(2,068) (1,716)	(1.39) (1.30)	

※ 募集人員は転動者生徒特別枠、転入者特別枠、推薦入学手続者、連携型入学手続者、在京外国人生徒等対象、国際バカロレアコース及び分割後募集の人員を除いた数である。

※ 普通科の海外帰国生徒対象には、引揚生徒対象の数も含む。

※ ()は昨年度の数値である。

※ 海外帰国生徒対象及び国際科(国際高校)の募集人員は9月募集を除いた数である。

※ 校数については複数の学科を併設している学校は、その学校の主たる学科欄において算入した。〔 〕は併設校を含めた延学校数である。

※ 定時制課程単位制総合学科(チャレンジスクール)は、六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、穆ヶ丘高校、桐ヶ丘高校、小台橋高校及び立川緑高校をいう。
また、定時制課程単位制普通科(チャレンジ校)は、八王子拓真高校(チャレンジ校)をいう。